



笠縫学区ホームページ

<http://www.machikyou.jp/kasanui/>

発行：笠縫学区まちづくり協議会

連絡先：笠縫まちづくりセンター
TEL・FAX 562-0071

Eメール：kasanui@machikyou.jp

笠縫学区（8月31日現在）

男性 5423人 女性 5690人

世帯数 4714世帯



琵琶湖フローティングスクール

笠縫小学校5年生がびわ湖フローティングスクールに行ってきた。今年はコロナの関係で日帰りという形でしたが、中身の詰まった充実した航海になりました。

九月十四日（月）9時30分、子どもたちは目を輝かせながら学習船「うみのこ」に乗り込みました。乗船してすぐに甲板に上がり、港で手を振ってくれている人たちに手を振って出港し、その後、船内見学をしました。

どの部屋も珍しく、子どもたちは興味津々でした。そして間もなく南湖展望。琵琶湖大橋の下を通るなんて初めての体験で、子どもたちは感動していました。

その後はAグループが昼食、Bグループがびわ湖学習。びわ湖学習では、湖底の生き物調べ、びわ湖の水の透明度調査、プランクトンウォッシング、びわ湖の漁業の

うち、2つを選んで学習しました。

湖底にもいろんな貝類が生きていること、びわ湖の水の透明度が場所によって違うこと、いろんな種類のプランクトンがいること、いろんな漁法があることなど、初めての発見がたくさんありました。

沖島展望では、沖島を間近で見ることなど、なかなかできない経験ができました。そして次はBグループが昼食、Aグループがびわ湖学習。それが終わると学習船ふり返りの時間になり、間もなく下船の時間になりました。

今回はコロナの関係で、予定していた葉山小の子どもたちと交流はできませんでしたが、子どもたちの心には楽しい琵琶湖の思い出がたくさんできました。



当事者の思い、願いに向かい合う大切さ！ 同推協 第3・第4講座を開催

笠縫学区同和教育推進協議会

9月12日（土）笠縫学区同和教育推進協議会が主催する第3・第4講座を合同で開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染の拡大防止対策として、第3・第4講座を併せて1回での開催とするとともに、参加者も町内会長24名とまち協役員のみで実施しました。



第3講座では、学区同推協の事務局長より「今年度の事業計画」の縮小や中止等についての説明がありました。

続いて、市立人権センターの杉江範昭さんを講師に招き、『町内学習懇談会 なぜ学ぶの…？何を学ぶの…？』～学びをとおして、だれもが暮らしやすい社会をめざす～と題してお話いただきました。

「今回の新型コロナウイルス感染の拡大は、社会に大きな影響をもたらし、感染者やその家族、医療従事者に対するデマや誹謗中傷などの《排除》《差別》が新たに生まれている。

今の社会状況だからこそ、正しい知識も含め、確かな学びが大切になる。みんなが考える土壌ができています。差別問題の原点に立ち返って、当事者の思い、願いに向かい合うことが大切である」と話されました。

第4講座では、引き続き人権センターの杉江さんより、町内学習懇談会の進め方や教材の紹介がありました。今年度は、例年どおりの学習懇談会が開催できないことから、開催場所や参加人数など、開催の仕方を工夫して実施することとなりました。



広報の作り方講習会に参加しました

9月5日（土）草津市立まちづくりセンター（西大路町）において、NPO法人やさしいデザインの宮嶋健人氏を講師に、「はじめてのSNS・Web～広報がうまくいくヒント、お伝えします～」と銘を打った、広報の作り方講座に情報発信部会からも参加し、総数30名で開催されました。



今や情報発信の手法として大きなウェイトを占めるWebとSNS。講座では、広報を行う対象と目的を明確にすることの重要性や、SNS活用のポイントとして、フェイスブック、ツイッター等代表的なSNS4種類の特徴の説明がありました。



具体的に、広報の成果を出すには、①対象の明確化（誰に見てほしいのか）②目的の明確化（見た人に何をしてほしいのか）③段階の整理（誰がどの段階でどの広報を見て次にどうするか）④数値目標（閲覧数、クリック数、購入数等）⑤情報発信の継続 ⑥効果の測定（やる気の維持）の6つのステップが大切であり、例えば、ホームページでは、どんな情報がどこにあるのか、一目で伝わるサイト構成について、上部メニューは1番重要なページに掲載することや、情報更新を継続するポイントとして、ハードルを下げる等との説明がありました。

盛りだくさんの内容でしたが、今回学んだことを今後の情報発信に活かしていきたいと思います。

今後の予定（10月15日～11月14日）

※記事作成時点での予定です。新型コロナウイルスの感染状況により、変更になる可能性があります。

10/17（土）	笠縫「おでかけ」ふれ愛 模擬体験 第11回 ふれあいパトロール
10/23（金）	まちづくり協議会 運営委員会
10/24（土）	第12回 ふれあいパトロール 防犯研修会
10/26（月）	笠小3年生とのグラウンドゴルフ交流会 第2回 笠縫学区防災対策委員会
11/ 7（土）	防災研修会

人権の花 サルビアをいただきました



9月18日（金）笠縫小学校から人権の花「サルビア」をいただきました。人権福祉委員会の子もたちが、プランター3個をまちづくりセンターへ届けにきてくれました。



笠縫っ子だより…



笠縫幼稚園ラストイヤー ～笠縫幼稚園～

いよいよ今年度を以て、本園は65年の歴史に幕を閉じることになりました。そして来春4月からは、園名を「笠縫こども園」と改め、新たな道を歩み出すこととなります。

本園の最初の卒園児の方は現在70歳を越えられました。長い歴史の中で本園には沢山の人の数えられない思い出がびっしり詰まっています。現在、本園舎の東側に、新たに迎える3歳児の教室や絵本室、給食配膳室等の増設工事が行われています。



紙すき体験 ～認定こども園みのり～

8月27日(木) 御影倶楽部(障害を持つ人たちが働く場)の方が数名園に来てくださり、5歳児に紙すきを教えて頂きました。



初めに御影倶楽部の方から自己紹介、紙すきの説明を受け、いよいよ紙すき体験! はがきサイズの木枠にお酒の紙パックを溶かしたものを入れ、醤油のもろみを香りと色付けに入れて一人ずつ自分ですきました。

御影倶楽部の方の協力を得ながら一人ひとり違った素敵な作品が出来ました。



まちづくりの主演は、あなたです! 多様な人材が支え合うまち

9月28日(月)に「(仮称)笠縫学区のつながりを考える委員会」を立ち上げ、第1回目の会合をもちました。

笠縫学区には、仕事との両立が難しい等の事情から、次世代の人達が地域への活動に関わりにくいという現状と課題があります。このことから、こうした人達が地域に関わりやすい体制づくりを検討しようと設立しました。

委員は、次世代を中心とした男女合わせて7人。



コーディネーターとして、下笠町出身の山元圭太さんをお願いし、自由に意見やアイデアを出しあえる雰囲気の中で進めていくことになりました。

今回は、委員の皆さんが、今後めざす方向を共有するための情報提供を行いました。

次回は、軸となる基本的な観点・考え方を統一したうえで、ビジョンを考えていくこととします。

地域で支え合う気運を高め、多様な人材が支え合い、安心して住み続けられるまちをめざします。



まち協の活動に参加して

三反田 美希さん



以前は、まちづくり協議会の名前は知っていましたが、活動内容や部会があることはほとんど知りませんでした。

今回、PTAの役員として1年間、まちづくり協議会の活動へ参加をするようになり、地域のための組織であることを学びました。関わりの中で、些細な気づきや要望を提案すれば、きちんと取り上げていただき、是非とも声は上げるべきだな!と思いました。

しかし、外から見ると活動内容や、誰がどのような関わり方をしているのか、分かりづらい部分が多いと思います。

今後、活動を通じて誰もが気軽にまちづくり協議会に関わっていけるよう、微力ですがお手伝いしていきたいです。

9月27日(日)に開催を予定しておりました、文化・健康・スポーツ部会主催の「笠縫学区グラウンドゴルフ大会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

まちづくりセンターからのお知らせ



まちづくりセンターで 住民票は発行できません

住民票のほか、印鑑登録証明書・戸籍謄抄本・所得証明書等も発行できません。

発行ご希望の方は下記の方法をご利用ください

- ・ 草津市役所の各課窓口で交付
- ・ マイナンバーカード(個人番号カード)を利用してコンビニエンスストアで交付

みんながもっと笑顔に KEEP SMILING

九月二十六日(土) 笠

縫幼稚園の運動会を開催し、テーマは「キープスマイリング」新型コロナウイルスの影響で世界中が途方に暮れる中、そんな社会に「笑顔を届けよう」と子どもたちは限られた時間の中で精一杯の演技を披露しました。

今年はコロナ感染対策として、4歳児と5歳児の2部制で開催し、さらには参観していただくご家庭にも人数制限の協力をいただきました。幼稚園生活が実質3か月にも満たない4歳児たちも懸命に走り、踊り、観客席からはその微笑ましい光景に大きな拍手が沸き起こっていました。

5歳児はクラス対抗のリレーとバレー。これまでの練習の成果が見事に発揮された「感動」溢れる素晴らしい演技でした。園庭は彩とりどりの笑顔に包まれました。

また一つ、子どもたちは大きな自信と貴重な経

験を身に付け、一回り大きく成長することができたと確信しています。文責 園長



「松中祭」(文化の部・体育の部) 「コロナに負けないぞ！」

今年度は、コロナ禍で様々な行事を見合わせなければならぬ状況があり、「松中祭」の開催も直前まで心配が続きました。実施するに当たっては、感染リスクを回避するため、開催方法や規模・内容などを教員はもちろん生徒会でも繰り返し考えました。そして「松中祭」を実施することができました。

今年の「松中祭」のテーマは、「晴天白日」。よく晴れ渡った青空と日の光のもとで、心に疑いなく、松中祭を開催したいという思いを込めて、生徒会のメンバーが考えたものです。サブテーマは「自由自在に」という意味の「with complete control」です。

九月十八日(金)は「松中祭」文化の部(合唱コンクール)。ひと学年ごとに体育館へ集まりステージ発表を行い、他の学年は、ライブ中継さ

れたその発表を教室で鑑賞すると

いう、いわゆるリモート合唱コンクールとなりました。どのクラスも練習を重ねたすばらしい歌声が体育館から教室へも響き渡り、クラスの合唱が終わる度に、体育館や各教室から大きな拍手が聞こえて来しました。



九月二十四日(木)は、「松中祭」体育の部。大縄跳びをはじめ、生徒会種目やリレーなど種目は例年より少なくなりましたが、クラスのた

めに自分の持てる力を一杯出し切ろうと頑張る姿や仲間を応援する熱い思いがグラウンドいっぱいに溢れていました。

